

【取組内容④】・教員がいつでも学び、授業実践に対して意見共有できるための工夫

先生の授業をみて
Google ドキュメント

クラスコメントを追加...


さんが新しい課題を投稿しました: 第2章1節③ 巨大な人口が支え
9月22日

9月21日
7月11日（火）に: 先生の授業を参観させていただきました。

授業のよさをみなさんと共...
Google ドキュメント

先生の授業

授業の導入がとても参考になりましたので、共有させていただきます。
「社会権」についての授業でした。




授業開始、黒板に「社会権」と書き、生徒に「社会権が初めて出てきたのはいつか？」との質問。歴史の復習もかねて、近くの生徒と数秒確認し合う。その間10秒くらいでしょうか。
タイムアップ後、教室内をぐるりと回りながら1人の生徒を指名して答えてもらい、みんなで正解を確認。正解を答えた生徒に、みんなで拍手。

テンポよく次の質問。
「社会権とは何？」
これも数秒、近くの生徒と確認し合う。先ほどの質問と同じように、教室内をぐるりと巡って1人の生徒を指名して答えてもらい、その後みんなで正解を確認し、答えた生徒に拍手。ここまで3分。

先生の授業技術の分析

- ①復習はテンポよく。「簡単」→「普通」と、「ほとんど全員が答えられる内容。
- ②教室内を移動しながら生徒の視線を集め、全員の意識を授業に向かわせる。
- ③指示は短く、余計な説明はしない。



教室内を移動する 先生を見る生徒たちのドキドキワクワクな視線。授業に集中できていない生徒に「自分が指名されるかも」というドキドキ感を与えつつ、誰が指名されるんだろうと先生を見つめるうちに、自然に授業に参加!

研究授業だけでなく、普段の授業を参観し合うことを通して、TPCの効果的な使い方や生徒の主体的な学びを実現するためのアイデアを学べるように取り組んでいる。それとともに、参観した授業について、様子が分かる写真と簡単な授業の流れ、参考となった事柄をドキュメントに簡単にまとめ、現職教育のクラスルームに投稿するようにしている。アップされたレポートは、教員がいつでも誰でも、様々な先生の実践を知ることができるため、これらを参考にしながら自分の実践に生かす姿が見られる。

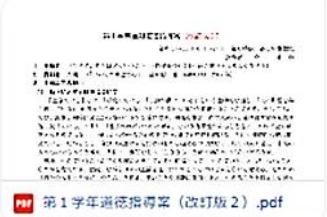
また、授業だけでなく、研修会でもらった資料や今後の研究に関わるような動画も投稿し合い、学んだことを全教員で共有できるよう工夫している。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容④】・教員がいつでも学び、授業実践に対して意見共有できるための工夫

いつもありがとうございます。本日の6時間目に1の3で道徳の授業をやらせていただきます。指導案については先週と同じ流れで進めたいと思います。もしもお時間がありましたら見ていただき、検証していただければ幸いです。よろしくお願ひします。
<https://drive.google.com/file/d/1unsUSjYdmR89KqNcGc6L0oHS6JUC5B4/view?usp=sharing>



10月20日, 7:37

授業を見られて気づかれた点や改善点等がありましたら、以下のフォームでお知らせください。また、直接聞きたいことや伝えたいことがあれば、いつでも教えてください。
<https://forms.gle/XJXr7KpRh95bzRk4A>



Google Forms

10/27（金）の1の4で行った道徳の主発問に対する考えの一覧表です。
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1YyTuK5Lej6WpRlrJ8p9Uf6tYeQZ1e3OxqJH1eKzV5Y/edit?usp=sharing>



10月30日, 11:39

1の3に送信する振り返りをまとめたものです。本日クラスルームにあげました。
https://docs.google.com/document/d/1A5jybm_Y6EdAvik8vwQXZM2xxu5vVQHWSdXuet_QHV/edit?usp=sharing



道徳の授業を見て

授業を参観していただきありがとうございました。気づかれた所や改善点がありましたら、フォームでご意見をください。

先生のお名前*

記述式テキスト（短文回答）

参観していただいた日*

年月日

今後の授業で参考になった所

記述式テキスト（長文回答）

上手くいっていない・改善が必要だと思った所

記述式テキスト（長文回答）

また、現職教育のチャットも活用し、自主実践を行う際は、指導案や資料、授業後の生徒の記述等を即時的に上げ、共有を図れるようにしている。また、授業後の感想や意見についてはフォームを使ってやりとりをするようにし、参観した先生に聞きに行くという時間を削減しつつも、授業者が様々な意見を得て、今後の授業づくりの参考にできるような工夫をしている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容④】・教員がいつでも学び、授業実践に対して意見共有できるための工夫



9月27日（最終編集: 10月2日）

10/5 本日の資料です。

	R5 第2回 校内授業研究... Google ドキュメント		R51012 第2 回校内授業研... PDF
教科書資料	教科書資料.pdf PDF		

クラスコメントを追加...

(1) 良かった点 ① 個別最適な学びと協働的な学びの実施 ② 自由進度（生徒に任せる）の学びの実施
③ 探究につながる新たな問いを生徒につくらせる ④ 授業者が新たな一歩を踏み出す
※ これらが、生徒の主体的な学びや本質的な学びにつながっているか（視点番号①～④で記入）

- ① 生徒一人ひとりが授業に取り組む姿勢が見られた。
- ① 最後のアウトプットで、あまり書いていない子も自分の言葉で伝えることができていた。
- ① ノーマルモードとハードモードのレベルに分けた学習の進め方。いへ
- ① テンポが速い中でも、チャットやジャムボードなどの使い分けをきちんとしていた。
- ② 自分でゴールを設定し、評価、Sを目指しつつAに止まっていた生徒や、その逆など様々いたのもよい
- ② 自分で調べ、整理し、共有してより深められる学びがよかった。
- ② チャットに情報を集めることで、瞬時に集め、いつでも確認することができた。
- ③ 視点を挙げ、個別、複数で取り組ませ、途中に各視点の共有もしていく。PR文を書かせ、それをまた立ち歩きで交流する。1時間の間でテンポよく展開されていた。
- ③ 最後のふりかえりでアジアの他の国との違いに注目させた（ふりかえりの共有で他者参照）
- ④ チャットの活用

(2) 課題点（視点番号①～④で記入）

- ・全体のまとめをどうされているのか。→クロームブックを活用することで、成績は上がったのが気になった。
- ・情報処理できる生徒はどんどん進めていき、深い学びができていたが、そうでない生徒は、複数での話し合いにも参加できずに立ち止まっていたように思う。→教師がペアを組ませることをしていたので良かった。
- ・チャットのテンポが速すぎて生徒は追えていない？生徒個人では追っているのか？
- ・情報収集の視点と整理・分析の視点が同じ？人口が多いことを豊富な労働力と捉えるか、維持の難しさと捉えるかなど、集めた無機質な情報に価値をつけるのが整理・分析（多面的な収集と多角的な分析）

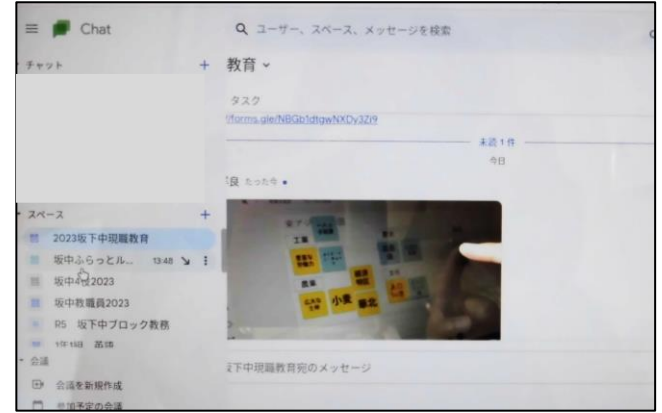
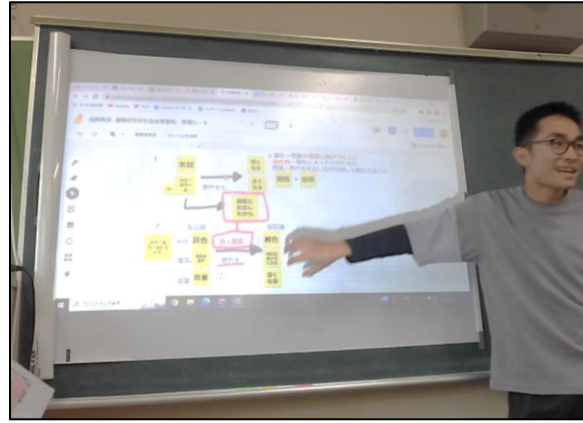
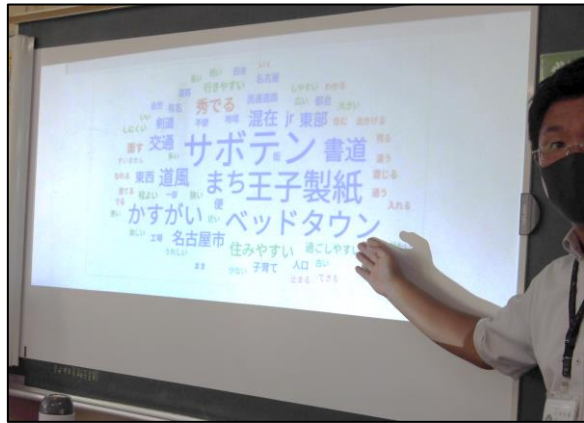
現職教育用のクラスルームを作成し、活用している。そこには、現職教育で使用する資料や年に3回実施している校内授業研究会のための指導案や資料を掲載している。

また、授業後の反省については、事前にグループ単位でスライドを共有し、いつでも入力できる状態にしている。そのため、協議会の折には、個々が考える授業の良かった点や課題点を明確化した状態でスタートできるため、的を絞った議論をすることができる。また、他のグループのスライドも見ることができるようになった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容④】・教員がいつでも学び、授業実践に対して意見共有できるための工夫



現職教育では、教務主任が主導して行うだけでなく、公開授業をする先生を中心に、授業での効果的なアプリの使い方や授業に役立つアイテムについてレクチャーをしてもらい、全教員が活用できるようにしている。それにより、テキストマイニングやJambord、チャットなどの活用が各教科で進んだ。

ひ続けられるように、子供のよさと学び方を獲得できるようにしていきたい。その教科の指導を中心に、※総合的な学習の時間も活用しながら自分をよく見つめ、調整できるように、振り返りなどを工夫・充実していきながら、生徒が自信を付けていけるようにする。また、協働的な学びで互いのよさを出し合ったり、違う層に触れながら学び合っていけるようにしていきたい。

※<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/126.html>

総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント (nits.go.jp)

8月18日、金曜日

8月18日、10:44

本の紹介です。すでに読まれた方もいるかと思いますが、高森台や出川の校内研や研修で指導助言していただいている高橋純先生の本です。いつも先生が話されている内容がまとめられているとともに、探究への授業に進めるための考え方も書かれているので、授業づくりをする上で、拠り所になると思います。（登本先生もおススメしていました。）職員室の出退勤用PCの横に立てかけておきますので、興味がある方は手にとってみてください。

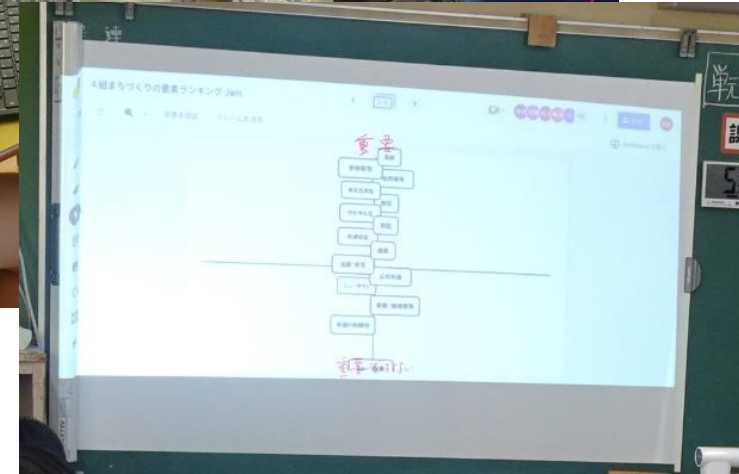
現職教育のために設定できる時間は限られているため、レジュメにこれからの研究に関わる動画や資料のサイトを掲載し、他の時間にも学ぶことができるように工夫している。

また、専用のチャットには、研修で学んだことや読んでおくとよい書籍の情報を投稿できるようにし、効率よくいつでも教員が学べる環境を整えている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容①】・TPCやクラウド環境を活用しながら、個の追究と協働での追究を連動させた取組



3年生の社会の授業「地方自治」の單元における活用場面である。まずは、自分が住んでいる地域の特色を個々に調べさせ、Googleフォームを使って提出をさせた。提出されたものはテキストマイニングを使い、生徒の捉えている地域の姿を可視化して共有した。それを踏まえ、地域をよりよくするためにどのような事に取り組むとよいか、グループで話し合いながら、順位付けと現時点の満足度をGoogle Jamboardを使って意思表示していった。各グループの考えについては、クラウド上にあるため、それらを見ながら自分たちの考えを見直したり自信をもったりする姿があった。他の教科も含めてこのような活用を進めている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容①】・TPCやクラウド環境を活用しながら、個の追究と協働での追究を連動させた取組



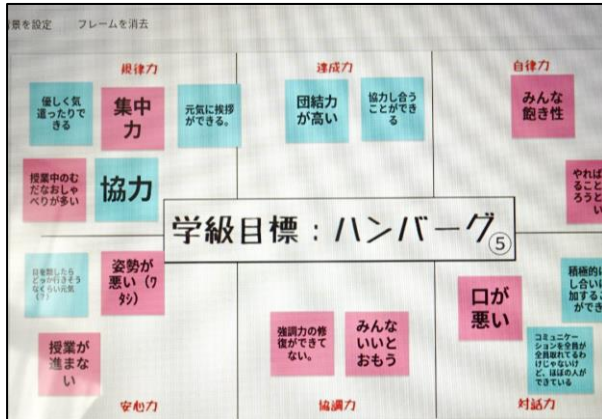
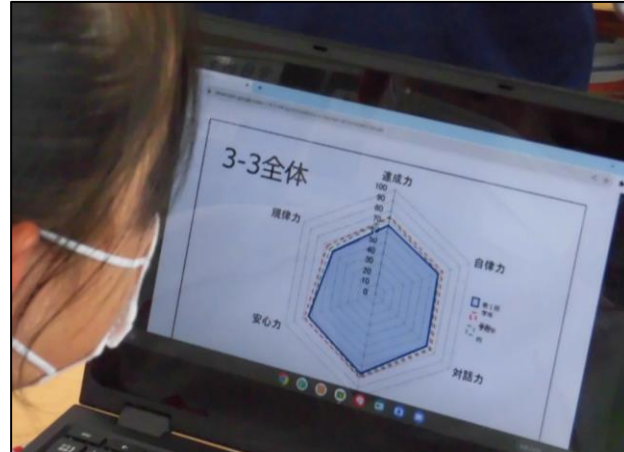
1年生の社会の授業「アジア州」の単位における活用場面である。まずは、教科書やインターネットを活用し国についての情報を個々で集め、Google Jamboardを使って項目に分類しながらまとめていった。その後、個で追究したい生徒はそのまま、グループで協働しながら進めたい生徒は集まって、引き続き追究を進めていった。

教員は調べている様子を見ながら、生徒の参考となるように、情報同士のつながりを見出している生徒や構造的にまとめている生徒のTPCの画面をチャットに随時上げていった。最後にGoogle Jamboardでまとめた国の地理的な特色は、クラウド上に共有され、次の国の追究を進める際に参考にできるようにした。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容①】・TPCやクラウド環境を活用しながら、個の追究と協働での追究を連動させた取組



生徒が主体的に学級づくりに携われるよう、「学級力向上プロジェクト」に取り組んでいる。そこで学級において必要な6つの項目についてのアンケートをフォームで行うことで、即時的に全生徒のデータを収集することができた。また、レーダーチャートに表した結果を個人・グループで分析する際に、Jambordを使うことで、学級の現状を互いに共有しながら、課題を解決するためのプロジェクトを生徒が主体的に考えられるようになった。また、各グループからの提案についてもスライドを使ってまとめることで、分かりやすく具体的なものとなった。なお、実施することになったプロジェクトはプリントアウトして掲示している。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容①】・TPCやクラウド環境を活用しながら、個の追究と協働での追究を連動させた取組

自 おくの細道

12月4日

全4時間で終了予定です。
やることリストは学習計画シートにあります。全てのタスクを完了させましょう。

「2」の現代語訳は「標準」と「やや難」の2種類にしました。
どちらか一方を選びましょう。（授業では「標準」に取り組み、復習のためにあとで「やや難」に挑戦するなどOK）

	<p>学習計画シート「おくの細道」 Google ドキュメント</p>		<p>「2」現代語訳 (標準) Google ドキュメント</p>
	<p>「2」現代語訳 (やや難)</p>		<p>おくの細道まとめ</p>

【単元のゴール】 芭蕉の旅に対する考え方と、現代の旅を持つ意味を比べてみよう。
芭蕉が旅を通して見たこと感じたことをまとめよう。

【単元のゴールに到達するための目標】

- ①歴史的背景などに注意し、表現の仕方や文体の特徴に着目して読むことができる。
- ②文章に表れている作者のものの見方や感じ方について考える。

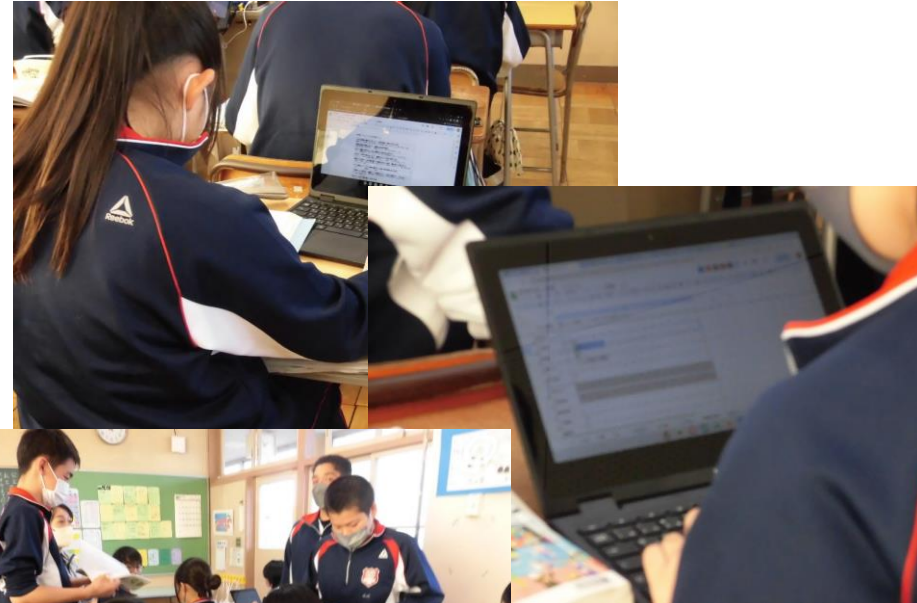
【評価方法】漢字テスト・単元テスト

- ①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しながら「1」「2」の音読をする。
- ②原文と現代語訳を対応させながら「1」を読む。
- ③ワークP118に取り組み、芭蕉と俳句について理解する。
- ④ワークP118～P119の下段に取り組み、現代仮名遣いに直す練習をする。
- ⑤「1」を読んで、芭蕉の旅に対する考え方をまとめる。
- ⑥教科書の脚注を見ながら「2」を現代語訳をする。
- ⑦ワークP123～P125に取り組み、P128・129の地図、P130・P131の写真を確認しながら「2」の内容を理解する。
- ⑧ワークP119の上段～P122に取り組みながら「2」の内容を理解する。
- ⑨芭蕉が旅を通して見たこと、感じたことをスライド（1枚）にまとめる。

【授業の流れ】

- 1 時間目・・・教師による単元の説明→単元の計画立て→教師による①②の説明→振り返り
- 2 時間目・・・教師による③④の説明→学習→振り返り
- 3 時間目・・・教師による⑦⑧の説明→学習→振り返り
- 4 時間目・・・単元テスト→スライド作成→単元の振り返り

振り返り【目標が達成できたかどうか、振り返ろう】



教員は事前に、クラスルームに手順や必要な資料、使用するアプリをアップロードしておき、授業が始まると生徒はそれを確認し、自分のペースで課題に取り組む自由進度学習を行っている。生徒は個で課題解決をしながらも、必要に応じて協働で取り組むなど、見通しと評価が明確化されたことで、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容①⑤】・校内授業研究会の実施と成果を発信する「坂中style」の配信



本校での取り組みを広く地域内外に知らせるとともに、教員の力量向上を図るため、年に3回の公開授業研究会を実施している。市内だけでなく、市外、県外からも参観者が集まり、授業を見ていただくだけでなく、その後の協議会や全体会にも参加をしていただき、TPCの効果的な活用の仕方について提案したり、よりよい授業にするためのご意見をいただいたりしている。また、校内授業研の様子についてはニュースレターにまとめ、資料として配布するとともに、保護者に電子データを配信している。こうしたことで、新しい授業のstyleについて少しずつ理解が広がっている。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立坂下中学校（愛知県）【協力校】

【取組内容④】・業務の効率化・迅速化を図る、スプレッドシートによる書類や報告文書の作成

※次の方のために、タブを増やし、○番号を1つ増やして入力してください。
 ※に自身が入力するタブの○番号の後に申請日を入力してください。（日付の入っているタブは使用済みです）
 ※指定部分に必要な事項を入力して、管理職に声かけをしてください。（チャットでも可）

校長 教頭

報告年月日 2022年11月30日水曜日

春日井市立坂下中学校長 様

管理用物品の学校外持ち出しについて

校長 教頭 教務主任 校務主任 保健主事 養護教諭

！ 確認したら、プルダウンで「確認済み」を選んでください。

校内災害発生報告書

シート下のタブに、クラスと生徒名を記入してください。

記入者氏名	← 記入する先生の名前を直接入力してください。
報告年月日	← ダブルクリックでカレンダー入力できます

下欄に記入・選択してください。

記入上の留意点	直接入力
	直接入力（ふりがなでも可）
	直接入力（例）101、1年1組どちらでも可
	← プルダウン
	直接入力
	← ダブルクリックでカレンダー入力できます
	直接入力（例）11：00、13：30等
	直接入力
	直接入力（例）○○の授業中、○○部活動中、清掃中、登校中、修学旅行 等

見出しのことににつきまして、下記のように取扱いのいで許可してください。

①	物件名(数)	下欄に記入・選択してください。	記入上の留意点	備考
	職員用ノートパソコン		直接入力	6-1
	目的	〇〇会議に使用するため	直接入力	補充用)
	持出開始年月日	2022年11月30日水曜日	← ダブルク	名
	返却年月日	2022年12月2日金曜日	← ダブルク	

このことについては、学校の管理規則を十分に理解

承認が完了しました

2023/12/11

承認者: 3人

承認アクティビティ

コメントを入力...

A	B	C	D
令和5年度	12月	懇談会報告書	※ 話題
学校	氏名	担任からの話および懇談内容	保護者が

教員が作成し、管理職に提出する書類をスプレッドシートで作成し、教職員用のクラスルームにアップロードしている。必要な場合は情報を入力し、チャットで連絡することで、各担当から確認がされていくことになり、省力化が図られている。

また、校外に出す文書については、承認機能を活用している。迅速に文書の確認がされるとともに、修正点が明確化し、間違いのない文書作成につながった。